

【作者】

李白（七〇一〜七六二年）・盛唐の詩人。杜甫（とほ）と並び称される。蜀（しよく）の錦州彰明県（きんしゅうしょうめいけん）青蓮郷（せいれんきょう）の人で青蓮居士（せいれんこじ）と号した。幼にして俊才、劍術を習い任侠の徒と交わる。長じて中国各地を遍歴し、四十二歳より四十四歳まで玄宗（げんそう）皇帝の側近にあり、のち再び各地を転々とし多くの詩をのこす。安祿山あんろくざん）の乱に遭遇して、罪を得たがのち赦される。安徽省馬鞍山の地で没す。享年六十二歳。

【語釈】

*片月…ぼつんとある月。 *擣衣聲…砧（きぬた）を打つ音 秋になると冬の用意のために布をたたいてつや出しをする時の音。 *玉關情…玉門関に遠征している夫を思う妻の情 玉門関は長安の北西3600里（約2000キロメートル）の所にあつて今の甘肅省敦煌の北西に位置する 当時異民族を討伐するために男たちは遠征していた。 *胡 虜…北方の異民族。 *良 人…夫。 *罷遠征…遠征をやめて帰ってくるのであろうか

【通釈】

長安の夜空にはぼつんと一つの月がかかつており、あちこちの家々から砧を打つ音が聞こえてくる。また秋風は絶えまなく吹き続け、さらにこれらは（月光・砧の音・秋の風）すべて玉門関に遠征している夫を思い慕う情をかきたてる。

いったい、いつになったら夫は異民族を平定して、遠い戦地から帰ってくるのであろうか。

【備考】

「子夜呉歌」は樂府題で、東晋のころ子夜という女性が歌い始めた民謡といわれる。東晋の都は呉にあったのでこの地方の歌を呉歌という。李白の「子夜呉歌」詩は春夏秋冬の四首連作で、この詩はその第三首目秋の歌であり「唐詩三百首」に所収されている。